

本コンテストは、林野庁が令和5年から長谷川町子美術館の協力を得て開催するもので、令和7年まで3回目となります。

「サザエさん」の4コマ漫画の吹き出しに、森林の木、木材または「伐つて、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用（森林の「環」などをテーマにした楽しいセリフを考えて、タイトルとともに応募いただくもので、8歳～75歳と幅広い年齢層から1,087作品の応募をいただきました）。

10代からの応募が最も多く、森林環境教育の一環として学校単位で応募いただいたケースも多数ありました。



吹き出しコンテスト2025フライヤー

愛媛県久万高原町 竹林遼哉氏(10代)



©長谷川町子美術館

北海道札幌市 縄乃々香氏(10代)



©長谷川町子美術館



森林・林業・木材産業の大切さの普及啓発につながるもの、4コマ漫画の流れに合うものなどの観点を重視して選考を行い、林野庁長官賞は、北海道札幌市の縄乃々香さんと愛媛県久万高原町の竹林遠哉

選考理由

林野庁長官賞2点

「急がなくても大丈夫」 二酸化炭素を減らすために、なるべく動かないようにしているサザエさんの行動が笑いを誘うとともに、すっ飛んで行ってまで木を植えようとする、おっちょこちょいのサザエさんらしいオチもあり、楽しい作品となっている。

「森林の役割」 サザエさんがふとした疑問をきっかけに森林の働きについて調べて、様々な役割があることを知る描写が素晴らしい、まずは興味を持ち、森林について知ってもらうことが大切であることを教えてくれる有意義な作品となっている。

みどりの感謝祭運営委員長賞1点

「私たちにできること」 身の回りの木材利用について、自分でもできる取組みを考えるきっかけとなる啓発作品であるとともに、サザエさんが学んだ「ウッド・チェンジ」の答えが「まな板無料配布に飛んで行くオチにつながっており、秀逸な作品となっている。

長谷川町子美術館賞1点

「バット」 木材製品をできるだけ長く使うことが、炭素を貯蔵する観点からも重要であることが表現されつつ、一方で森林資源を循環させるため新しいバットを買ってもらおうとするちゃっかりしているカツオ君の性格がうまく表現されており、親しみやすい作品となっている。

みどりの感謝祭運営委員長賞 「私たちにできること」

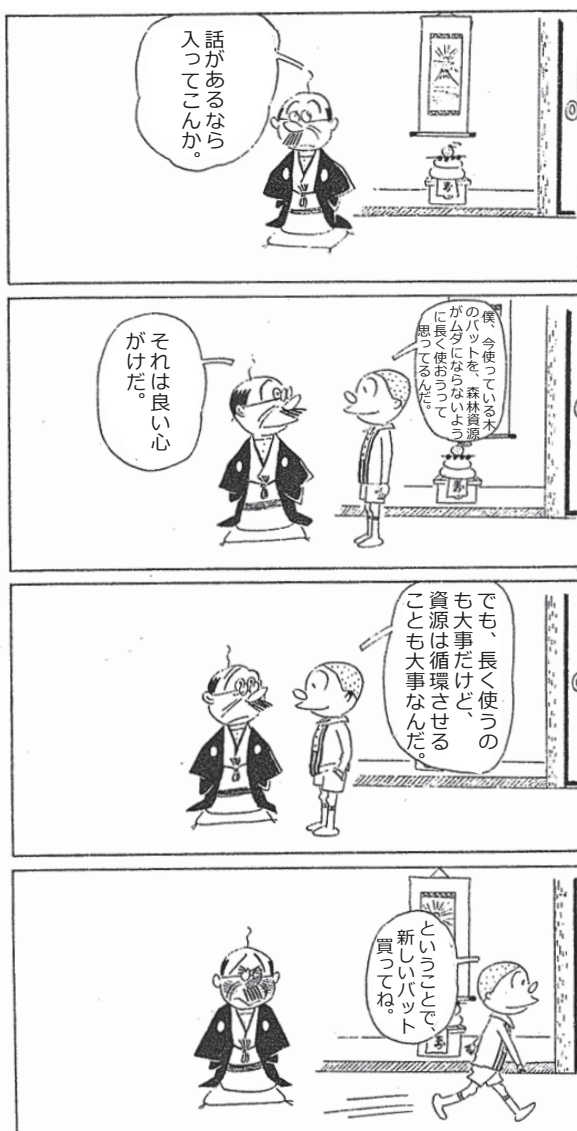
群馬県伊勢崎市 三島勇一郎氏(20代)



©長谷川町子美術館

長谷川町子美術館賞 「バット」

静岡県浜松市 清水裕一郎氏(30代)



©長谷川町子美術館

さん、みどりの感謝祭運営委員長賞は群馬県伊勢崎市の三島勇一郎さん、長谷川町子美術館賞は静岡県浜松市の清水裕一郎さんが受賞しました。

本コンテストの表彰式は、令和7年11月4日に

「森林×ACTチャレンジ2025」の表彰式等と
合同で開催し、その様子は12月号に掲載予定です。